

平成28年度事務事業評価シート

取組みコード 51137

区分	補助金・交付金	担当課	農政課	作成日	平成28年5月13日
事業名	有害鳥獣対策用備品購入費補助金	開始年度	平成15年度	予算科目	5.1.3.2.2

1 事業の概要

総合計画での位置づけ	
部	第5部 多彩な産業の活力あるまちづくり
章	第1章 特色ある農林業の振興
節	第1節 農業の振興
基本施策	3 地域農業の振興
取組みの基本方向	(7)地域の実情に応じた有害鳥獣対策を推進し、農業従事者の生産意欲の向上につとめます。
根拠法令等	
目的 (誰・何を対象に、何のために)	町内に住所を有し、現に居住している者で、猿による被害を受けているか、又は被害を受ける恐れがあると認められる者に対し、有害鳥獣対策の一環として実施。
内容・方法 (何を行っているのか)	猿追い払い用電動エアガンを購入使用とする者に対し、その費用の一部を補助する。 ※購入金額の1/2 上限18,000円

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標	指標名		平成21年度	平成28年度			
		『農業の振興』について「満足」と感じる住民の割合		30.5%	41.0%		
	認定農業者数		32人	40人			
(A) 総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果	有害鳥獣による農作物被害の減少						
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度(平成25年度)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
農作物被害額	減	有害鳥獣による農作物被害額(単位:千円) 計画値は鳥獣被害防止計画をもとに設定	計画値		400.0	365.0	329.0
			実績値	2,255.0	10,138.0	3,353.0	
			達成度※自動計算		3.9	10.9	
(B) 成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動	本事業は補助金の給付のみであるため、町の活動としては、申請書の受理、報告書の審査等だけであることから、活動指標の設定は行わない。						
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成26年度	平成27年度	平成28年度
			計画値				
			実績値				
			達成度※自動計算		計測不能	計測不能	計測不能

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

(E) 平均人件費(円/年) 8,300,000

年度	基準年度(決算) (平成25年度)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算見込)	平成28年度(予算)
(A) 事業費(円)	0	0	0	18,000
(B) 概算職員数(人)	0.001	0.001	0.001	0.002
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算	8,300	8,300	8,300	16,600
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算	8,300	8,300	8,300	34,600
単位当たりコスト ※自動計算	3.7	0.8	2.5	
財源内訳(円)	特定財源			
	国庫支出金			
	県支出金			9,000
	地方債			
その他				
一般財源 ※自動計算	8,300	8,300	8,300	25,600

4 事業の項目別評価(分析)

項目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 <small>(公費を投入して実施することが妥当な事業か)</small>	法令等で義務付けられた事業である		C
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない	○	
	国や県において実施している事業との重複がない	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの低下や変質がない		
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている		
	受益に応じた負担は適正である	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である		
	事業・サービスの対象者の日常生活に必要な事業である 上記のいずれにも当てはまらない		
有効性 <small>(基準年と比較して成果が上がっているか)</small>	成果指標について平成27年度の目標を達成している	×	C
	基準年度と比較して成果が向上している	×	
効率性 <small>(なるべく費用をかけずに成果を上げているか)</small>	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用減<成果ダウン	C
有用性 <small>(施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)</small>	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	間接的	C
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高くない	
総合評価 ※自動判定		廃止も含めた検討が必要	

5 特記事項

有効性・効率性がC判定となっているのは、成果指標である農作物被害額の調査方法が変更になったことにより、被害金額が増加し、計画値を達成しなかったことによるものである。

6 自己評価(担当課)

評価結果	再構築
理由	電動エアガンよりも追い払い効果の高い煙火(花火)等をより有効に活用できるよう再構築を図る。
今後の方向性	ニホンザルは、筒から発射された砲弾(花火)がサル自身に向かって飛んでくるのを恐れる習性があるため、ロケット花火による追払いは効果が高いが、現時点では飛ぶ方向が安定しないことが課題となっている。今後は狙った方向に飛ばせる発射台を作成し配付するなどの工夫を凝らし、より効果的な追払いを再構築するものとする。

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	再構築
今後の方向性に係る意見等	所管課の方向性のとおり

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	再構築
今後の方向性に係る意見等	

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

本事業については、平成28年度をもって廃止とし、平成29年度予算において当該予算を消耗品に組み替え、ロケット花火の発射台を購入する。
購入後については、地域町内会等に貸し出しを行ない、地域によるサルの追い払い体制の構築を目指す。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	再構築
理由・改善方針	本事業については、平成28年度をもって廃止とし、これに代えて、平成29年度から、より効果的な追払い対策に資する事業を実施する。